

令和 3 年 6 月 22 日現在

機関番号：87111

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17K03088

研究課題名（和文）古代大宰府の部内諸司に関する基礎的研究

研究課題名（英文）Basic study of the Dazaifu government office and related office

研究代表者

松川 博一（Hirokazu, Matsukawa）

九州歴史資料館・学芸調査室・研究員（移行）

研究者番号：40446886

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：大宰府史跡の発掘調査成果と関連史料や出土文字資料の照合・検討を通じて、すでに8世紀の大宰府の下に十二の諸司（官司）が成立していたことを明らかにした上で、それぞれの官司の構成や役割、勾当（担当）の監典（第三・四等官）と品官（専門職員）・下級役人による官司運営の実態、官司総体としての変遷について結論を得ることができた。さらに政所や蔵司および付属の官営工房をはじめとした官司の所在地の比定も行った。そのことにより、大宰府がもつ中央政府と諸国との中間的な性格、言い換えれば大宰府の特殊性を官司機構の観点から解き明かすことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

大宰府の官衙研究は、竹内理三氏の「大宰府政所考」（1956年）以降、個別の諸司諸所について専論した研究は数多くあったが、諸司についての総合的な研究はあまり行われてこなかった研究状況であった。本研究は文献史料だけでは解明が困難であったところ、50年にわたる大宰府史跡の発掘調査成果とのすり合わせを行うことで、大宰府の官司機構とその運営の実態を解明することができた。さらに今後、大宰府史跡の発掘調査や研究を進めていく上での視角や課題を提示することができた。これにより、古代官衙研究において平城京・平安京や多賀城・斎宮、各地の国府との比較研究の基盤が整ったことになる。

研究成果の概要（英文）：Through collation and examination of the excavation results of the Dazaifu historic site with related historical materials and excavated text materials, it was clarified that the twelve related government offices had already been established under Dazaifu in the 8th century. We were able to draw conclusions about the composition and role of the government officials, the actual state of the government officials' operation by Gen and Ten(main officials), Honkan (specialist officials), and lower-ranking officials, and the transition of the entire government offices. In addition, the locations of Mandokoro office, Kuranotukasa office, and the attached government-owned workshop were also determined.

As a result, it was possible to clarify the intermediate character of Dazaifu between the central government and the countries, in other words, the peculiarity of Dazaifu from the perspective of the administrative structure.

研究分野：日本古代史

キーワード：古代史 大宰府 官衙

1. 研究開始当初の背景

平成30年には、福岡県教育委員会および九州歴史資料館が大宰府史跡の発掘調査を始めて、50年の節目を迎えた。その間、大宰府政庁跡やその周辺官衙遺跡の発掘調査が行われ、その成果は正式報告書『大宰府政庁跡』『大宰府政庁周辺官衙跡 ～ 』としてまとめられている。これにより政庁および府庁域(大宰府官衙域)の一部とされる政庁前面広場・日吉・不丁・大楠地区の遺構や遺物が報告された。

一方、発掘調査が進行していた蔵司地区については、「蔵司」の地名が残るものの、研究開始当初には倉庫群の存在が確認できておらず、その性格をめぐっては議論があるところであった。個別地区の官衙遺跡についての成果が報告され、また課題も明らかになりつつあるいま、個別遺跡についてはもとより、官衙域総体として、考古学的な調査研究成果と文献史学の研究成果とをすり合わせる段階にきている。

大宰府の官司機構の研究は、軍事史の視点から防人司、対外交渉史の視点から蕃客所・鴻臚館・主船司、財政史の視点から蔵司・税司というように個別分野史から部内諸司が取り上げられ、また大野城跡から大野城司、学校院跡から府学校、海の中道遺跡から主厨司所管の津厨というように個別遺跡の評価をめぐって検討が行われることが多かった。しかし、官司機構の分化や成熟化は、個別の諸司ごとに進むものではなく、ある程度、大宰府の官司機構総体として捉えるべきである。また、大宰府がかかえるその時々々の政治課題に応じて、しかも複数の諸司が連動する形で拡張していることも考慮すべきである。さらに先行研究の多くは、大宰府政庁周辺官衙跡の調査成果がまとめられる以前のものであることも今回の研究の必要性を高めている。

私はこれまで諸司の個別研究にかかわるものとして、大宰府政庁跡の後殿地区(政庁東南隅)出土木簡の内容の検討を通じて同地区を「政所」に比定(九州歴史資料館編『大宰府政庁跡』)、鴻臚館跡出土木簡の検討を通じて饗謙の場としての役割を論じてきた(松川博一・大庭康時「鴻臚館跡の出土木簡・トイレ・年代」(『木簡研究』第29号、2007年)、また、大宰府の軍制を検討することで「京」あらず「国」あらずという大宰府の中間的な性格を明らかにした(拙稿「大宰府軍制の特質と展開」『九州歴史資料館研究論集』37、2012年)。本研究では、これらの成果や手法を活かしつつ、大宰府の官司としての特殊性を解き明かすことに努める。

2. 研究の目的

本研究の目的は、大宰府政庁周辺の官衙遺跡の発掘調査成果と関連史資料との照合・検討を通じて、古代大宰府の部内諸司の役割や変遷、立地、活動の実態を明らかにすることである。これまでの大宰府の官司機構の研究は、対外防衛、外交の窓口、西海道支配という大宰府がもつ役割を軍事史や対外交渉史・財政史等の各分野史で個別的に論じられることが多かった。そこで本研究では、それらの成果を総合的に捉え直し、主として文献史学と考古学の協業により、最新の発掘調査の成果や出土文字資料の再検討、古代大宰府の部内官司の所在比定を試みるとともに、その役割や変遷を大宰府の官司機構総体のなかで捉え、その活動の実態を明らかにする。さらに中央官司や国府と比較することで大宰府官制の特殊性を浮き彫りにする。

3. 研究の方法

(1) 第1年度は大宰府の官司機構関係の基本文献の収集に努めるとともに、大宰府の機能や役割に関わる史料の集成を行った上で、部内諸司との関連から史料の分類に取り組む。

基本文献の収集

大宰府の官司機構についての研究文献・論文を収集する。その際に個別官司に関わる論文だけでなく、大宰府の機能や役割に言及した論文も含めて対象とする。これは単に研究史を把握するためだけでなく、引用史料を抽出することで関連史料の集成にもつながる重要な作業である。

関連史料の集成

大宰府の機能や役割に関わる史料を『大宰府・太宰府天満宮史料』や『太宰府市史古代資料編』から集成を行う。可能な限り関連史料の博搜に努め、既刊史料集の遺漏を補う。

関連史料の分類

大宰府の部内諸司名の有無に関わらず、それぞれの諸司の機能や役割に関係すると思われる史料を諸司ごとに分類していく。ちなみに現在、知られている大宰府の部内諸司は、学校院・兵馬所・蕃客所・主厨司・主船司・匠司・修器仗所・薬司・貢上染物所・作紙所・蔵司・税司・大帳所・公文所・防人司・警固所・大野城司・貢物所・政所など、19所司である。これにより史料の見落としを防ぐと同時に、上記の諸司に属さない機能や役割の抽出も可能である。

(2) 第2年度は分類された史資料の具体的な検討を地道に行うことで、部内諸司の役割や変遷を解明する。また、出土文字資料の内容はもとより、特殊遺物や遺構の分布、建物等の配置・消長について、調査・検討に取り組むことで、考古学的な成果を集約する。

分類された史料の検討

諸司がもっていたと想定される機能と役割に関わる史料に検討を加えていき、諸司の成立や拡縮・改廃などの契機を見出すとともに、活動の具体的な実態を明らかにしていく。その一方で個別官司の研究では明らかにしえない諸司の分化や成熟化を総体的に捉えることに努める。

出土文字資料の検討

大宰府史跡および条坊域出土の木簡・墨書土器などの出土文字資料の検討を行う。府庁域出土の木簡の多くは、部内諸司で使用・廃棄されたものであり、その活動の実態を示す。木簡には、下級役人の職名なども確認でき、諸司の構成を検討する素材となる。墨書土器のなかには、諸司名を記したものも散見する。あらためて当館の赤外線スキャナ・カメラを使用して釈読に努める。

考古学的成果の集約

大宰府周辺官衙遺跡の発掘調査成果の集約を行う。現在、大宰府政庁および政庁前面にあたる政庁前面広場・日吉・不丁・大楠・広丸地区の発掘調査成果が出揃いつつある。各地区の建物の構造・配置・方位や変遷、区画施設の機能、井戸の分布、生産遺構の変遷などを整理・検討する。木簡・墨書土器・硯や鋳型・漆付着土器などの生産遺物、煮沸具・貯蔵具・供膳具としての土器、陶磁器・緑釉陶器など的高级食器、瓦埴の分布を調査・検討する。そのことにより、各区画の遺構や遺物の特徴や土地利用の変化を明らかにし、その区画が果たした機能や変遷を解明する。

(3) 第3年度は史料と考古学的な成果との照合と、古絵図や地籍図の調査成果の援用により、府庁域の確定と部内諸司の比定を行う。さらに中央官司や国府との比較検討にも取り組む。また、中央官司や国府の部内官司との比較を行い、大宰府官制の特徴を浮き彫りにする。

文献史料と発掘調査成果の照合

発掘調査成果の集約により得られた所見を文献史料と照合および検討を加えることで、諸司の比定さらには府庁域の確定作業を行う。

古地図・地籍図等の調査成果の援用

江戸時代の礎石の配置・史跡名勝を示した古地図や明治初年の土地利用・区画がわかる地籍図の調査成果を活かし、照合作業を進め、比定の精度を高める。

比較研究・学术交流の基盤づくり

中央官司および多賀城をはじめとした国府の部内諸司にかかる関連資料・文献の収集、発掘成果の入手、現地調査および出土資料の実見調査を実施する。

研究の総括

本研究の総括を行い、成果は学術論文の発表とともに、当館の展示・講座で紹介する。

4. 研究成果

(1) 大宰府研究史の総括

江戸時代から現在にいたる古代大宰府に関する研究文献の集成を行い、大宰府研究の歴史を拙稿「大宰府研究のあゆみと九州国立博物館」(九州国立博物館・福岡県立アジア文化交流センター編『大宰府史跡指定100年と研究の歩み(九州国立博物館アジア文化交流センター研究論集第2集)』2021年)としてまとめた。本稿では研究史を振り返り、大宰府とは何か、その特性を明らかにするには、大宰府が有する西海道総管・軍事・外交の三つの機能がどのような過程を経て大宰府が担うようになり(成立論)、その機能を担うためにどのような組織が整備され(機構論)、実際各時期でどのように機能したのか(機能論)、そして各機能がどのように変質していったのか(変質論)を明らかにしていく必要があることを述べた上で、大宰府と西海道諸国、大宰府と中央政府、大宰府とアジアという三つの関係、言い換えれば九州の中心としての大宰府、律令国家における大宰府、アジアの中の大宰府という三つの視点から捉えることの重要性を強調した。本研究テーマは大宰府研究のうちの機構論に相当するものである。大宰府の官司機構の研究史については、拙稿「大宰府官司制論」(大宰府史跡発掘50周年記念論文集刊行会編『大宰府の研究』高志書院、2018年)において詳論し、研究課題と方法論について述べている。

また、本研究の成果については、平成30年度の九州歴史資料館主催・会場の大宰府史跡発掘50周年記念特別展「大宰府への道 古代都市と交通」のほか、福岡県教育委員会主催・太宰府市中央公民館会場の同記念シンポジウム「大宰府史跡発掘50年」や太宰府市文化ふれあい館主催・会場の同記念講演会「大宰府とは何か 大宰府研究50年のあゆみ」などにおいて反映・還元を図った。

なお、平成30年には大宰府史跡発掘50周年記念論文集『大宰府の研究』(高志書院)を刊行し、その事務局として編集の実務を担当した。本書には50年にわたる大宰府史跡および関連遺跡の発掘調査に基づく考古学の成果はもとより、「古代の大宰府」を主要なテーマとして、考古学・古代史・美術史・人文地理学・土工学・建築史・保存科学・文化財学と幅広い分野の研究者が執筆し、43本の論文が収載された。まさに大宰府研究の現在の到達点と今後の課題を提示するものとなった。また、発刊の前年にはその内容の充実を図る目的で大宰府研究会を主宰し、当館の文化財調査室調査研究班とともに運営に当たった。そのことは本研究の実施の上でも大きな刺激と推進力になった。大宰府研究会は九州歴史資料館を会場として以下の内容で開催された(所属は平成29年当時)。発表者の多くは本研究の連携研究者と研究協力者である。

第1回 松川博一(九州歴史資料館)「大宰府官司制論 - 被管諸司の検討を中心に - 」

- 小澤佳憲（九州歴史資料館）「大野城の『繕治』について」
- 第2回 下原幸裕（九州歴史資料館）「軒丸からみた第一期大宰府政庁及び関連施設の造営」
比嘉えりか（福岡市文化財部）「大宰府成立前後の造瓦体制（予察）」
- 第3回 小嶋 篤（九州国立博物館）「大宰府史跡出土兵器の研究」
野木雄大（福岡県文化財保護課）「11～12世紀の大宰府軍制」
- 第4回 重藤輝行（佐賀大学）「西海道のヤケと倉庫」
遠藤啓介（甘木歴史資料館）「大宰府出土例から初期貿易陶磁器を考える」
加藤和歳（九州歴史資料館）「大宰府出土土器に付着する白色物質の科学的研究」
- 第5回 酒井芳司（九州歴史資料館）「筑紫国造と評の成立」
岡寺 良（九州歴史資料館）「四王院跡と四王寺山経塚群」
- 第6回 重松敏彦（太宰府市公文書館）「文献史料からみた古代大宰府の時期的変遷・序説」
菅波正人（福岡市文化財部）「鴻臚館をめぐる諸問題」
瓜生秀文（糸島市教育委員会）「怡土城に関する諸問題」

(2) 大宰府十二司の論証

出土文字資料を含めた関連史料の集成や分類、検討を通じて、「大宰府十二司」の存在を論証した。拙稿「大宰府官司制論」では、大宰府の「諸司」の用例について検討することにより、奈良時代の大宰府において「諸司」という概念がすでに存在したことを明らかにした。あわせて、大宰府において諸司印が早期に成立した理由についても中央における諸司印の成立の契機と照らし合わせることで、財源である雑米等の直接的な出納管理のために必要であったことを導き出した。同じく被管官司を擁する斎宮寮関係の史料との比較検討をあわせて行うことで奈良時代にすでに十二の「司」が存在していた可能性が高いことを指摘した。また、出土文字資料の集成を大宰府政庁周辺官衙跡出土の文字資料だけではなく、大宰府条坊跡などの周辺遺跡まで拡大して行うことで、新たに「匠司」や「城司」の墨書土器を検討材料として加えることができた。その結果、大宰府の被管諸司は、令の規定にはみえないものの、遅くとも8世紀前半に成立しており、天平17年の時点で十二の諸司が存在したことを論証した。具体的に十二の「司」としては、防人司・主神司・主船司・匠司・城司・府学校・主厨司・蔵司・税司・薬司・判司・陰陽司もしくは府衛が想定される。また、現在までに比定されている諸司の所在地について整理するとともに、再検討を加えた。

なお、本研究の成果については、大宰府史跡発掘50年記念九歴講座「大宰府の諸司と官人」において社会への還元を図った。

(3) 蔵司地区・不丁地区官衙跡の性格検討

最新の発掘成果である蔵司地区官衙跡の遺構を検討し、その性格をについて推論を述べるとともに、中央の大蔵省との比較を通じて蔵司の役割や構成について現段階での見解を明らかにした。研究開始当初は倉庫跡が未検出であったために蔵司跡と認定することが難しかったが、丘陵の南東部に総柱の礎石建物が中央の広場を囲むように南北棟二棟、東西棟四棟がコ字型に並ぶことが確認された。これにより、丘陵の南西部で確認されている九間×二間の大型礎石建物（S B 5000）を蔵司の曹司庁、倉庫群を「筑紫大蔵」院とする見解を拙稿「大宰府官司制論」の中で述べている。すでに調査研究が進んでいる不丁地区官衙跡についても蔵司管下の官営工房「大宰府工房」とする新知見を公表している。さらに同地区官衙跡出土の木簡やその他の遺物の詳細な検討を行い、大蔵省被管の織部司・漆部司・典鑄司・掃部司に相当する官司および官営工房が存在した可能性を指摘した（拙稿「大宰府の官衙と木簡」『木簡研究』第42号、2021年）。

なお、蔵司地区・不丁地区官衙跡の性格検討については、本科研の成果の発信として開催された、平成30年の大宰府史跡発掘50年記念シンポジウム・九州国立博物館「大宰府学研究」事業シンポジウム「展望・大宰府研究 大宰府の官衙 大宰府政庁周辺官衙跡の調査から」において議論を深めた。内容は以下のとおりである。小田・下原・酒井・小澤氏は本研究の連携研究者である。

- 趣旨説明 松川博一（九州歴史資料館）
記念講演 森 公章（東洋大学）「大宰府の官衙」
研究報告 小田和利（九州歴史資料館）「前面官衙跡の調査研究成果」
下原幸裕（福岡県教育庁）「蔵司地区官衙跡の調査研究成果」
小嶋 篤（九州国立博物館）「鉄から見た大宰府官衙」
松川博一（九州歴史資料館）「大宰府の諸司 蔵司を中心に」

パネルディスカッション「大宰府の官衙」

- 司会：酒井芳司（九州歴史資料館）
小澤佳憲（九州国立博物館）
ミュージアムトーク「大宰府史跡発掘50年記念特集展示 大宰府研究のあゆみ」
案内：一瀬 智（九州国立博物館）

(4) 官司運営の実態の究明

大宰府政庁跡・不丁地区官衙跡の遺構や出土木簡ならびに諸司関係史料の検討を通じて、大宰府の政所や諸司における政務運営の実態を究明した。拙稿「大宰府の官衙と木簡」では、大宰府の政治の中心である政庁内にその政務の中樞を担う実務的な部署が存在していたとして、「東北殿」ともいえる堀立柱建物（S B 500 a）や礎石建物（S B 500 b）さらにはそれと

対称となる「西北殿」の存在を想定し、後殿地区全体が政所であった可能性を指摘した。大宰府政庁跡出土木簡は、大宰府の中枢における文書事務の実態と、それを支えた下級官人の日常を伝えてくれていることを述べた。一方、大宰府政庁の周囲に展開した大宰府の被管官司は、原則として監典二人の監督の下、現業を所管する品官と事務に精通した書生により運営されていたとみられることや、監典は早朝から政所で執務し、そののちに勾当（担当）する複数の諸司・諸所を回って政務を行っていたこと、さらにそれらは雑務を担う使部や雑役に当たる雑工・仕丁・兵士らによって支えられていたことなどを明らかにした。

なお、本研究内容については、第7回大宰府研究会（於九州国立博物館）および第41回木簡学会研究集会シンポジウム「大宰府と木簡」（於奈良文化財研究所）において研究報告をしており、考古学の立場や平城京・国府との比較という観点で参加者から多くの貴重な意見を頂いた。また、今後につながる多賀城との比較研究という点でも有益なものであった。内容は以下のとおりであり、『木簡研究』第42号に論文として掲載されている。酒井氏は本研究の連携研究者、大高氏は研究協力者である。

松川博一（九州歴史資料館）「大宰府の官衙と木簡」

酒井芳司（九州歴史資料館）「大宰府成立期の木簡 七世紀木簡を中心に」

大高広和（福岡県人づくり・県民生活部）「木簡からみた西海道の軍事と木簡」

吉野 武（宮城県教育庁）「多賀城からみた大宰府史跡出土木簡」

坂上康俊（九州大学）：講評およびシンポジウム討論司会

(5) 大宰府における官司の変遷の研究

考古学との協業により大宰府政庁および周辺官衙跡の変遷について一定の見通しを得ることができた。不丁地区をはじめとした官衙域は8世紀前半から整備が始まり、8世紀中頃から9世紀前半が最も充実し、それ以降低迷や衰退をたどり天慶4年（941）の藤原純友による焼き討ちを契機として宅地化されることがわかってきた。おそらく、純友の乱ののち、政務や実務の場が完全に所司の曹司から大宰府の官人の館へ移ったことによるものと考えられる。一方、大宰府政庁は儀式の場として再建されるが、後殿地区にあった政所は他の所司と同様に大宰府の官人の館へ移行し、それとともに礎石建物（S B 500 b）に相当する施設は再建されず、かわりに楼風の総柱の礎石建物（S B 510）が築造されることになったと想定される。

(6) 大宰帥の館の所在論の整理

大宰府諸司の研究とも関連することから、令和改元で注目の的となった「梅花の宴」が行われた大宰帥大伴旅人邸の所在論について現段階での諸説を紹介した上で、その旅人邸の所在地を検討する意義について論及した。拙稿「大宰帥大伴旅人の邸宅をめぐって」（『都府楼』第51号、2020年）では、坂本八幡宮周辺説、月山（東）地区官衙跡説、榎社周辺説の三説の根拠と問題点を整理し、大宰府の長官である帥の館がどういう場所にあるべきかという問いは、大宰府の位置づけや都市としての性格を考える上で重要な問題提起であることを述べた。ひとつは政庁と帥の館の位置関係であり、大宰府の位置づけや大宰帥の身位が当時どのように捉えられていたのかという問題につながることを指摘した。もうひとつは大宰府において官衙（曹司）と官人の居宅（館）が混在する時期があったのか、あったとすればいつから府庁域と官人居住域が明確に区画されたのかということである。これは奈良時代において大宰府が政治都市としてどこまで成熟していたのかという理解につながることを提起した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 松川博一 | 4. 巻 493 |
| 2. 論文標題 古代の大宰府と軍団 - 御笠団印をめぐって - | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 西日本文化 | 6. 最初と最後の頁 20-23 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 松川博一 | 4. 巻 51 |
| 2. 論文標題 大宰帥大伴旅人の邸宅をめぐって | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 都府楼 | 6. 最初と最後の頁 30-35 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小田和利・松川博一・遠藤啓介・岡寺良 | 4. 巻 45 |
| 2. 論文標題 大宰府史跡出土資料紹介 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 九州歴史資料館研究論集 | 6. 最初と最後の頁 69-73 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 松川博一 | 4. 巻 50 |
| 2. 論文標題 出土文字資料で読み解く大宰府の軍制 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 都府楼 | 6. 最初と最後の頁 86-87 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 松川博一 | 4. 巻 0 |
| 2. 論文標題 大宰府官司制論 - 被管官司の検討を中心に | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 大宰府史跡発掘50周年記念論文集刊行会『大宰府の研究』高志書院 | 6. 最初と最後の頁 51-71 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 松川博一 | 4. 巻 0 |
| 2. 論文標題 大宰府と交通 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 大宰府史跡発掘50年記念特別展『大宰府への道 - 古代都市と交通 - 』図録 | 6. 最初と最後の頁 146-153 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 松川博一 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 文献史料からみた大野城 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 大宰府学研究 (九州国立博物館アジア文化交流センター研究論集) | 6. 最初と最後の頁 173-176 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 松川博一 | 4. 巻 1 |
| 2. 論文標題 大宰府の諸司 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 大宰府学研究 (九州国立博物館アジア文化交流センター研究論集) | 6. 最初と最後の頁 211-216 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 松川博一 | 4. 巻 43 |
| 2. 論文標題 律令制下の大宰府と古代山城 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 九州歴史資料館研究論集 | 6. 最初と最後の頁 21-32 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------------|
| 1. 著者名 松川博一 | 4. 巻 42 |
| 2. 論文標題 大宰府の官衙と木簡 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 木簡研究 | 6. 最初と最後の頁 219 - 240 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 松川博一 | 4. 巻 2 |
| 2. 論文標題 大宰府研究のあゆみと九州国立博物館 | 5. 発行年 2021年 |
| 3. 雑誌名 大宰府史跡指定100年と研究の歩み (九州国立博物館アジア文化交流センター研究論集) | 6. 最初と最後の頁 11 - 34 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件)

| |
|-----------------------|
| 1. 発表者名 松川博一 |
| 2. 発表標題 大宰府の官衙と木簡 |
| 3. 学会等名 第7回 大宰府研究会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--------------------------|
| 1. 発表者名 松川博一 |
| 2. 発表標題 大宰府の官衛と木簡 |
| 3. 学会等名 第41回 木簡学会研究集会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名 松川博一 |
| 2. 発表標題 出土文字資料からみえてきた大宰府の実像 |
| 3. 学会等名 大宰府史跡発掘踏査50年記念シンポジウム |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名 松川博一 |
| 2. 発表標題 大宰府の諸司 蔵司を中心に |
| 3. 学会等名 九州国立博物館「大宰府研究」事業シンポジウム |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名 松川博一 |
| 2. 発表標題 大宰府とは何か 大宰府研究50年のあゆみ |
| 3. 学会等名 大宰府史跡発掘50年記念 大宰府学講座（招待講演） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 松川博一 |
| 2. 発表標題 菅原道真公の見た大宰府 |
| 3. 学会等名 講演会「応天門を往く - 菅原道真公を語る - 」(太宰府天満宮主催)(招待講演) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|------------------------------------|
| 1. 発表者名 松川博一 |
| 2. 発表標題 大宰府官司制論 - 被管所司の検討を中心に - |
| 3. 学会等名 第1回大宰府研究会 |
| 4. 発表年 2017年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|--------------------------------------|----|
| 研究協力者 | 大高 広和 (Ootaka Hirokazu) | 福岡県庁・人づくり・県民生活部 | |
| 連携研究者 | 小田 和利 (Oda Kazutoshi) (60554904) | 九州歴史資料館・学芸研究室・研究員 (87111) | |
| 連携研究者 | 酒井 芳司 (Sakai Yoshiji) (00543688) | 九州歴史資料館・学芸研究室・研究員 (87111) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|---|----|
| 連携研究者 | 岡寺 良 (Okadera Ryou) (70543693) | 九州歴史資料館・学芸調査室・研究員 (87111) | |
| 連携研究者 | 小澤 佳憲 (Ozawa Yoshinori) (90756660) | 九州歴史資料館・文化財調査室・研究員 (87111) | |
| 連携研究者 | 大庭 孝夫 (Ooba Takao) (90543695) | 九州歴史資料館・文化財調査室・研究員 (87111) | |
| 連携研究者 | 下原 幸裕 (Shimohara Yukihiro) (30615836) | 九州歴史資料館・文化財調査室・研究員 (87111) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
| | |